

令和 2 年 6 月 24 日現在

機関番号：11101

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15H02563

研究課題名(和文) 前立腺癌の過剰診断と過剰治療を回避する糖鎖バイオマーカーの実用化

研究課題名(英文) Practical application of glycan-targeted biomarker to prevent over-diagnosis and over-treatment of prostate cancer

研究代表者

大山 力(Ohyama, Chikara)

弘前大学・医学研究科・教授

研究者番号：80282135

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 30,100,000円

研究成果の概要(和文)：前立腺癌のスクリーニングで広く使用されている前立腺特異抗原:prostate specific antigen(PSA)法の欠点であった特異度の低さを克服するために、PSAの糖鎖構造の癌性変異を検出する新規アッセイ法を開発した。この新規アッセイ法は感度、特異度共に従来のPSA法を遥かに凌駕し、不要な前立腺生検を約40%削減可能となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

前立腺癌は欧米のみならず、我が国においても発生頻度の高い癌の一つであるが、PSAを用いたスクリーニングによって、過剰診断や過剰治療が行われている可能性がある。この問題を解決するには、PSAの弱点である特異度を改善する必要がある。本研究では、PSA糖鎖の癌性変異をレクチンで捉えて定量化する新規アッセイ系を開発し、実臨床でのスクリーニングに適応可能なレベルまで実用性を高めた。本アッセイ系を使用することにより、不要な前立腺生検を約40%削減できるため、患者の負担軽減と医療費の大幅な削減効果が期待できる。

研究成果の概要(英文)：Prostate specific antigen (PSA) assay method is now widely used for prostate cancer screening. However, its low specificity was vital weakness for cancer screening, because a number of suspicious patients had to receive unnecessary invasive prostate biopsy. To overcome this weak point of conventional PSA blood test, we developed a novel serum assay system to measure cancer-associated glycan alteration. Using this new assay system, accuracy of diagnosis of prostate cancer dramatically improved to reduce about 40% of unnecessary prostate biopsy.

研究分野：泌尿器科学

キーワード：前立腺癌 前立腺特異抗原 レクチン 糖鎖

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

前立腺がん(prostate carcinoma: 以下「PC」と略す)は男性に最も一般的な癌で、男性の主要な死亡原因でもある。2020~2024年には年間の新規に発症する前立腺がん数は10万5800人となり、胃がんと肺がんを抜き、男性がんの第1位になると予想されている。

PSAは、前立腺で産生される、前立腺に特異的な糖タンパクの一種である。前立腺癌に罹患すると血液中のPSA値が高くなることから、PSA値は、PCを判定するための最も重要な腫瘍マーカーとして認識されている¹⁾。

PSAは、血液中では大部分が α 1-アンチキモトリプシンや α 2-マクログロブリンなどの結合蛋白と結合して複合体を形成する(以下、「結合型PSA」と記載する。)。また、一部は複合体を形成していない遊離型として存在する(以下、「遊離型PSA」と記載する。)

現在広く行われている血清PSA検査では、この遊離型PSAと結合型PSAを区別せずに、PSAの総量(すなわち、遊離型PSAと結合型PSAの合計の量、以下、「トータルPSA値」と記載する。)を測定する。トータルPSA値の基準値は4.0 ng/mL未満である。前立腺に何らかの疾患があるとトータルPSA値は上昇する。トータルPSA値が10.0~20.0 ng/mLの場合は40%程度、20.0 ng/mL以上の場合には50%以上の患者に前立腺癌が発見される、といわれている。

トータルPSA値が基準値よりも高いが、上記の高値よりも低い中間の4.0~10.0 ng/mLの範囲は、所謂グレーゾーン(gray zone)と呼ばれている²⁾。このグレーゾーンのトータルPSA値を示す患者に癌が発見される確率は約25~30%であると言われる。すなわち、トータルPSA値が正常値よりも高値だったとしても必ずしも前立腺癌に罹患しているとは限らない。前立腺肥大症(benign prostatic hyperplasia: 以下「BPH」と略記する。)や前立腺炎等の、他の前立腺の病気がある場合にもしばしば高値になることが知られている。従って、トータルPSA値が上記のグレーゾーンであった患者は、前立腺癌に罹患しているか、BPH等の前立腺癌以外の疾患に罹患しているのかの判断がつかい兼ねる場合が多い。そのため、血清PSA検査でPSA値がグレーゾーンであった場合には、確定診断を得るために針生検を行うが、その針生検をおこなうことにより感染症や障害等のリスクが増加することが問題となっている。つまり、がんでない人が過剰な診断を受けるリスクが高くなっている。また、逆に針生検でもがんが見つけれず、見逃されるケースもある。

さて現在、腫瘍マーカーとして使用されている分子の多くは、糖タンパク質である。この糖タンパク質腫瘍マーカーの糖鎖構造は、正常組織由来のものと癌由来のものでは、その構造が大きく異なることが知られている。PSAも分子量34kDaの糖タンパク質であり、糖鎖は、その約8%を占める。

PSAの糖鎖に関する研究で、PSAの糖鎖としては2本鎖で末端にシアル酸が α (2,6)結合でガラクトースに結合したN型糖鎖のみが発現しているとの報告があった³⁾。そして、セイヨウニワトコレクチン(SNA)を用いてトータル血清PSAの糖鎖の α (2,6)結合シアル化、トータル血清PSAの糖鎖の α (2,3)結合シアル化、及びフリー血清PSAの糖鎖の α (2,3)結合シアル化を分析することにより、患者が前立腺癌を有しているか否かを確認する方法が開示された⁴⁾。

一方、PSAの糖鎖が非常に多様性に富んでいること⁵⁾、およびPSAの糖鎖の末端シアル酸は α (2,6)結合でのみでなく α (2,3)結合でガラクトースに結合しているものも約10%存在することが明らかになった。更にその後、PSA患者の血清中には、そのN型糖鎖の末端シアル酸残基が α (2,6)結合でよりも α (2,3)結合でガラクトースに結合したPSAが増加することが

明らかになった⁶⁾。そして、以上の知見に基づいて、末端シアル酸残基が $\alpha(2,3)$ 結合でガラクトースに結合した糖鎖を特異的に認識するイヌエンジュレクチンを用いたアフィニティークロマトグラフィーにより、PSA と BPH を識別する方法が、大山らによって完成された⁷⁾。当該方法では、「分画前の血清のフリーPSA 値およびトータル PSA 値に対する、レクチン結合分画のフリーPSA 値およびトータル PSA 値のパーセント比を取るか、あるいは分画前の血清のフリーPSA 値に対する、レクチン結合分画のフリーPSA 値のパーセント比を取り、その値から PC と BPH を識別する方法」が開示されている。

ミュータスワコー i 3 0 (医療機器届出番号 27B3X00024000013) およびミュータスワコー i 5 0 (27B3X00024000017) は測定原理を同じくするものであり、プラスチック基板上に微細流路中を配したマイクロチップを用いて、微細流路中で等速電気泳動によるサンプル濃縮を実施し、その後レクチン親和性電気泳動を行うことのできるシステムである。そこで、上記癌性糖鎖 PSA の診断マーカーとしての実用化を前提に、当測定原理を用いたアッセイ系の開発を行ったので、臨床での有用性を調べることにした。

1) Stamey TA, Yang N, HayAR, et al. Prostate-specific antigen as a serum marker for adenocarcinoma of the prostate. *N Engl J Med* 1987 ; 317 : 909-916

2) Catalona WJ, et al., Use of the percentage of free prostate-specific antigen to enhance differentiation of prostate cancer from benign prostate disease : A prospective multicenter clinical trial. *JAMA* 1998 ; 279, 1542-1547

3) Belanger A, Van Halbeek H, Gravuxes HC, et al., *Prostate*, 1995, vol. 27, pp. 187-197

4) 特表 2 0 1 1 - 5 2 9 1 8 4 号公報

5) Ohyama C, et al., *Glycobiology*, 2004, vol. 14, pp. 671-679

6) Tajiri M, Ohyama C, Wada Y, *Glycobiology*, 2008, vol. 18, pp. 2-8

7) 特許 5 6 3 0 7 6 7 号公報

2 . 研究の目的

PSA 測定値による診断では、前立腺肥大症との鑑別が難しいため、過剰診断しないことを目的に 4.0ng/mL というカットオフが設けられているが、実情は 4.0ng/mL 以下でもがん患者は存在し、2.0-4.0ng/mL の日本人被験者にフォーカスした臨床試験では、一定数の癌陽性判定例が報告されている⁸⁻⁹⁾。一方、米国 NCCN ガイドライン (2016 年度版) では、PSA 値測定によるカットオフ判定のみで診断を行った場合と比べ、F/T(%)PSA を指標に加える事で不要な前立腺生検の 20% を回避できる事が示されている。また、本邦では未承認ながら、他の新規手法を適用する事で不要な生検をさらに回避できる可能性について言及されている。

本検査薬では、前立腺癌診断における既存バイオマーカーの精度の限界が明らかとなった対象例にフォーカスし、針生検や画像診断を行う前の 2 次スクリーニングとして、過剰診断の是正に働きかける事を目的とする。本検査薬の導入により、診断のグレーゾーンとされる PSA 測定値領域で課題であった被験患者の前立腺癌診断の特異度 (添付資料 1) を向上させる事で、針生検や画像診断を行う被験者を減らし、医療経済に貢献するとともに、被験者の負担を軽減できる。

3 . 研究の方法

PSA は、前立腺がんの罹患により、血清中濃度が上昇することで知られている。ヒトの

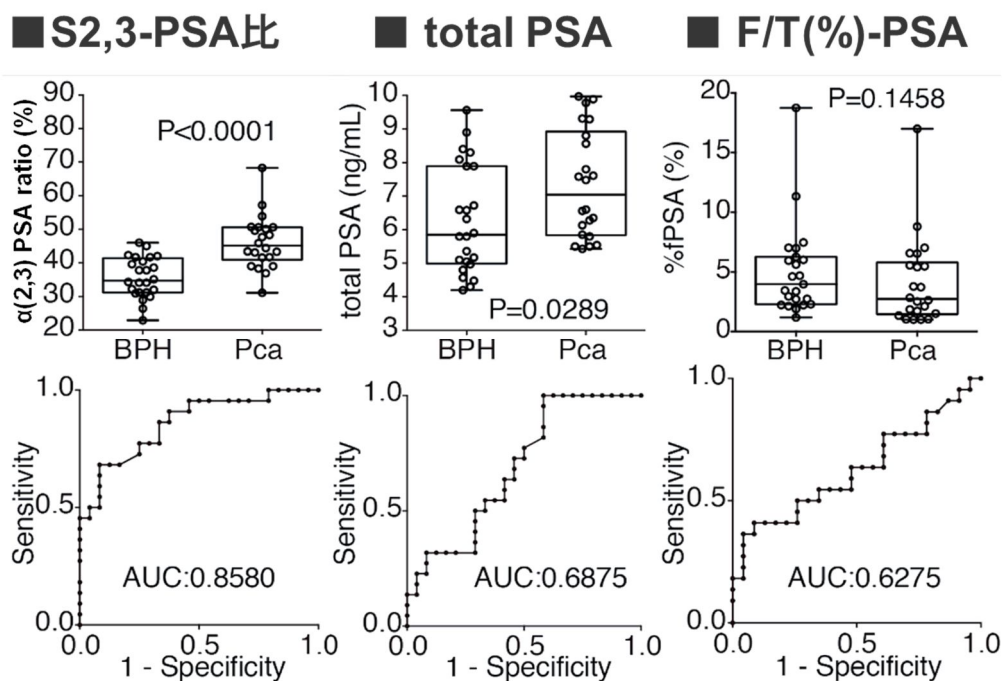
PSA には 1 分子当たり 1 本のアスパラギン結合型糖鎖が存在し、その糖鎖構造は明らかにされている。また、細胞の癌化に伴い、糖鎖末端のシアル酸の結合が、 $\alpha 2, 6$ から $\alpha 2, 3$ に変化することが知られている。

イヌエンジュレクチン (MAL) は糖鎖末端のシアル酸の結合が $\alpha 2, 3$ である糖鎖と反応するレクチンである。よって、MAL を用いてレクチン親和性電気泳動を行うと $\alpha 2, 6$ 結合末端シアル酸糖鎖を持つ PSA と $\alpha 2, 3$ 結合末端シアル酸糖鎖を持つ PSA を分離することができる。これは、 $\alpha 2, 3$ 結合末端シアル酸糖鎖を持つ PSA が MAL と反応して、電気泳動時間が伸びるのに対して、 $\alpha 2, 6$ 結合末端シアル酸糖鎖を持つ PSA は MAL と反応しないため、電気泳動時間が早くなるためである。この原理を利用して、キャピラリー電気泳動での分離を実施した。

4. 研究成果

我々は、S2,3-PSA の遊離型 PSA に占める割合を測定することにより、PSA の問題であった特異度の改善 (前立腺肥大症と前立腺癌の切り分け) が可能と考え、検討を行った結果、下記のようなデータを得た (下図)。

● S2,3-PSA と PSA と F/T(%)-PSA (フリー-PSA%) の ROC 比較



S2,3-PSA の AUC は既存の診断マーカーである total PSA および F/T(%)-PSA の AUC を遙かに凌駕するものであった。血清 PSA 4.0 ng/mL 以上で生検が必要と判定された症例のうち、約 40% は S2,3-PSA がカットオフ値未満であった。実際の PSA スクリーニングにあてはめると、S2,3-PSA を 2 次スクリーニングに導入することによって、約 40% の不要な生検を回避することが可能になる。

現在、S2,3-PSA 法のキット化が終了し、薬事承認のための臨床試験が進行中である。本法が保険収載されれば、不要な生検が大幅に削減され、患者と医療者の負担軽減、合併症回避、医療費削減に大きく寄与することが期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計49件（うち査読付論文 48件／うち国際共著 4件／うちオープンアクセス 41件）

1. 著者名 Oikawa Masaaki, Hatakeyama Shingo, Yoneyama Tohru, Tobisawa Yuki, Narita Takuma, Yamamoto Hayato, Hashimoto Yasuhiro, Koie Takuya, Narita Shintaro, Sasaki Atsushi, Tsuchiya Norihiko, Habuchi Tomonori, Takahashi Ippei, Nakaji Shigeyuki, Ohyama Chikara	4. 巻 4
2. 論文標題 Significance of Serum N-glycan Profiling as a Diagnostic Biomarker in Urothelial Carcinoma	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 European Urology Focus	6. 最初と最後の頁 405 ~ 411
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.euf.2016.11.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kido Koichi, Hatakeyama Shingo, Fujita Naoki, Yamamoto Hayato, Tobisawa Yuki, Yoneyama Tohru, Yoneyama Takahiro, Hashimoto Yasuhiro, Koie Takuya, Iwabuchi Ikuya, Ogasawara Masaru, Kawaguchi Toshiaki, Ohyama Chikara	4. 巻 23
2. 論文標題 Oncologic outcomes for open and laparoscopic radical nephroureterectomy in patients with upper tract urothelial carcinoma	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Clinical Oncology	6. 最初と最後の頁 726 ~ 733
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10147-018-1248-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okamoto Teppei, Hatakeyama Shingo, Tanaka Yoshimi, Imanishi Kengo, Takashima Tooru, Saitoh Fumitada, Koie Takuya, Suzuki Tadashi, Ohyama Chikara	4. 巻 22
2. 論文標題 Butyrylcholinesterase level as an independent factor of erythropoiesis-stimulating agent resistance in patients on maintenance hemodialysis: a single-center cross-sectional study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Clinical and Experimental Nephrology	6. 最初と最後の頁 1174 ~ 1181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10157-018-1569-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kido K., Hatakeyama S., Hamano I., Yamamoto H., Imai A., Yoneyama T., Hashimoto Y., Koie T., Fujita T., Murakami R., Tomita H., Suzuki T., Narumi S., Ohyama C.	4. 巻 50
2. 論文標題 Partial Cystectomy of Paraganglioma of the Urinary Bladder Before Living Kidney Transplantation: Case Report	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Transplantation Proceedings	6. 最初と最後の頁 898 ~ 901
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.transproceed.2018.01.015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Soma Osamu, Hatakeyama Shingo, Okamoto Teppei, Fujita Naoki, Matsumoto Teppei, Tobisawa Yuki, Yoneyama Tohru, Yamamoto Hayato, Yoneyama Takahiro, Hashimoto Yasuhiro, Koie Takuya, Nakaji Shigeyuki, Ohyama Chikara	4. 巻 9
2. 論文標題 Clinical implication of a quantitative frailty assessment tool for prognosis in patients with urological cancers	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Oncotarget	6. 最初と最後の頁 17396-17405
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18632/oncotarget.24712	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okubo Teppei, Mitsuzuka Koji, Koie Takuya, Hoshi Senji, Matsuo Shigeki, Saito Seiichi, Tsuchiya Norihiko, Habuchi Tomonori, Ohyama Chikara, Arai Yoichi, Michinoku Urological Cancer Study Group	4. 巻 48
2. 論文標題 Two years of bicalutamide monotherapy in patients with biochemical relapse after radical prostatectomy	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Clinical Oncology	6. 最初と最後の頁 570 ~ 575
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jjco/hyy060	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kido Koichi, Hatakeyama Shingo, Imai Atsushi, Yamamoto Hayato, Tobisawa Yuki, Yoneyama Tohru, Yoneyama Takahiro, Hashimoto Yasuhiro, Koie Takuya, Nakaji Shigeyuki, Ohyama Chikara	4. 巻 18
2. 論文標題 Sleep Disturbance Has a Higher Impact on General and Mental Quality of Life Reduction than Nocturia: Results from the Community Health Survey in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 European Urology Focus	6. 最初と最後の頁 30107-X
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.euf.2018.04.017	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Iwamura Hiromichi, Hatakeyama Shingo, Sato Makoto, Ohyama Chikara	4. 巻 35
2. 論文標題 Asymptomatic recurrence detection and cost-effectiveness in urothelial carcinoma	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Medical Oncology	6. 最初と最後の頁 94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12032-018-1152-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Momota Masaki, Hatakeyama Shingo, Yamamoto Hayato, Iwamura Hiromichi, Tobisawa Yuki, Yoneyama Tohru, Yoneyama Takahiro, Hashimoto Yasuhiro, Koie Takuya, Iwabuchi Ikuya, Ogasawara Masaru, Kawaguchi Toshiaki, Ohyama Chikara	4. 巻 9
2. 論文標題 Risk-stratified surveillance protocol improves cost-effectiveness after radical nephroureterectomy in patients with upper tract urothelial carcinoma	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Oncotarget	6. 最初と最後の頁 23047-23057
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18632/oncotarget.25198	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hamano Itsuto, Hatakeyama Shingo, Nakamura Rika, Fukuhara Rie, Noro Daisuke, Tanaka Toshikazu, Yoneyama Tohru, Yamamoto Hayato, Yoneyama Takahiro, Hashimoto Yasuhiro, Koie Takuya, Yokoyama Yoshihito, Ohyama Chikara	4. 巻 25
2. 論文標題 Differences in semen characteristics between patients with testicular cancer and other malignancies using various cut-off values	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Urology	6. 最初と最後の頁 817 ~ 824
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/iju.13732	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okamoto Teppei, Hatakeyama Shingo, Hosogoe Shogo, Tanaka Yoshimi, Imanishi Kengo, Takashima Toru, Saitoh Fumitada, Suzuki Tadashi, Ohyama Chikara	4. 巻 13
2. 論文標題 Proton pump inhibitor as an independent factor of progression of abdominal aortic calcification in patients on maintenance hemodialysis	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 199160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0199160	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shiraishi Takumi, Nakamura Terukazu, Ukimura Osamu, the Cancer Registration Committee of the Japanese Urological Association	4. 巻 25
2. 論文標題 Chemotherapy for metastatic testicular cancer: The first nationwide multi-institutional study by the Cancer Registration Committee of the Japanese Urological Association	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Urology	6. 最初と最後の頁 730 ~ 736
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/iju.13720	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okamoto Teppei, Tsutaya Chikako, Hatakeyama Shingo, Konishi Sakae, Okita Kazutaka, Tanaka Yoshimi, Imanishi Kengo, Takashima Tooru, Saitoh Fumitada, Suzuki Tadashi, Ohyama Chikara	4. 巻 50
2. 論文標題 Low serum butyrylcholinesterase is independently related to low fetuin-A in patients on hemodialysis: a cross-sectional study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Urology and Nephrology	6. 最初と最後の頁 1713 ~ 1720
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11255-018-1957-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamamoto Hayato, Koie Takuya, Ookubo Teppei, Mitsuzuka Koji, Narita Shintaro, Inoue Takamitsu, Kawamura Sadafumi, Kato Tomoyuki, Tochigi Tatsuo, Tsuchiya Norihiko, Habuchi Tomonori, Arai Yoichi, Ohyama Chikara	4. 巻 50
2. 論文標題 Can single positive core prostate cancer at biopsy be considered a low-risk disease?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Urology and Nephrology	6. 最初と最後の頁 1829 ~ 1833
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11255-018-1966-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koie Takuya, Ohyama Chikara, Yoneyama Takahiro, Nagasaka Hirotaka, Yamamoto Hayato, Imai Atsushi, Hatakeyama Shingo, Hashimoto Yasuhiro	4. 巻 14
2. 論文標題 Robotic cross-folded U-configuration intracorporeal ileal neobladder for muscle-invasive bladder cancer: Initial experience and functional outcomes	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The International Journal of Medical Robotics and Computer Assisted Surgery	6. 最初と最後の頁 e1955 ~ e1955
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/rcs.1955	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yogesh K. V., Kamiyama Toshiya, Ohyama Chikara, Yoneyama Tohru, Nouse Kazuhiro, Kimura Satoshi, Hinou Hiroshi, Nishimura Shin-Ichiro	4. 巻 9
2. 論文標題 Synthetic glycopeptides as a designated standard in focused glycoproteomics to discover serum cancer biomarkers	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 MedChemComm	6. 最初と最後の頁 1351 ~ 1358
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1039/c8md00162f	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto Teppei, Hatakeyama Shingo, Imai Atsushi, Tanaka Toshikazu, Hagiwara Kazuhisa, Konishi Sakae, Okita Kazutaka, Yamamoto Hayato, Tobisawa Yuki, Yoneyama Tohru, Yoneyama Takahiro, Hashimoto Yasuhiro, Koie Takuya, Nakaji Shigeyuki, Ohyama Chikara	4. 巻 123
2. 論文標題 Relationship between oxidative stress and lower urinary tract symptoms: results from a community health survey in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 BJU International	6. 最初と最後の頁 877 ~ 884
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/bju.14535	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fujita Naoki, Koie Takuya, Hashimoto Yasuhiro, Narita Takuma, Tobisawa Yuki, Tanaka Toshikazu, Noro Daisuke, Oikawa Masaaki, Hagiwara Kazuhisa, Yoneyama Tohru, Imai Atsushi, Yamamoto Hayato, Hatakeyama Shingo, Yoneyama Takahiro, Ohyama Chikara	4. 巻 50
2. 論文標題 Neoadjuvant chemohormonal therapy followed by robot-assisted and minimum incision endoscopic radical prostatectomy in patients with high-risk prostate cancer: comparison of perioperative and oncological outcomes at single institution	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Urology and Nephrology	6. 最初と最後の頁 1999 ~ 2005
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11255-018-1985-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hamano I., Hatakeyama S., Yamamoto H., Fujita T., Murakami R., Shimada M., Imai A., Yoneyama T., Yoneyama T., Hashimoto Y., Koie T., Narumi S., Saitoh H., Suzuki T., Tomita H., Ohyama C.	4. 巻 50
2. 論文標題 Condyloma Acuminata of the Urethra in a Male Renal Transplant Recipient: A Case Report	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Transplantation Proceedings	6. 最初と最後の頁 2553 ~ 2557
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.transproceed.2018.02.182	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kubota Yuka, Hatakeyama Shingo, Narita Ikuyo, Shimada Michiko, Hashimoto Yasuhiro, Ohyama Chikara	4. 巻 26
2. 論文標題 Clinical impact of glomerular basement membrane thickness on post donation renal function in living donors	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Urology	6. 最初と最後の頁 309 ~ 311
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/iju.13850	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Konishi Sakae, Hatakeyama Shingo, Tanaka Toshiaki, Ikehata Yoshinori, Tanaka Toshikazu, Fujita Naoki, Ishibashi Yusuke, Yamamoto Hayato, Yoneyama Takahiro, Hashimoto Yasuhiro, Yoshikawa Kazuaki, Kawaguchi Toshiaki, Masumori Naoya, Kitamura Hiroshi, Ohyama Chikara	4. 巻 36
2. 論文標題 Comparison of axitinib and sunitinib as first-line therapies for metastatic renal cell carcinoma: a real-world multicenter analysis	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Medical Oncology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12032-018-1231-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okita Kazutaka, Hatakeyama Shingo, Fujita Naoki, Konishi Sakae, Yamamoto Hayato, Imai Atsushi, Yoneyama Takahiro, Hashimoto Yasuhiro, Ito Hiroyuki, Yoshikawa Kazuaki, Koie Takuya, Ohyama Chikara	4. 巻 36
2. 論文標題 Postoperative weight loss followed by radical cystectomy predicts poor prognosis in patients with muscle-invasive bladder cancer	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Medical Oncology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12032-018-1232-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okamoto Teppei, Hatakeyama Shingo, Narita Shintaro, Takahashi Masahiro, Sakurai Toshihiko, Kawamura Sadafumi, Hoshi Senji, Ishida Masanori, Kawaguchi Toshiaki, Ishidoya Shigeto, Shimoda Jiro, Sato Hiromi, Mitsuzuka Koji, Tochigi Tatsuo, Tsuchiya Norihiko, Arai Yoichi, Habuchi Tomonori, Ohyama Chikara	4. 巻 37
2. 論文標題 Impact of nutritional status on the prognosis of patients with metastatic hormone-naive prostate cancer: a multicenter retrospective cohort study in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 World Journal of Urology	6. 最初と最後の頁 1827-1835
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00345-018-2590-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto Teppei, Hatakeyama Shingo, Narita Takuma, Yoneyama Takahiro, Hashimoto Yasuhiro, Ohyama Chikara	4. 巻 26
2. 論文標題 Evaluating the effects of switching from dutasteride to tadalafil in benign prostatic hyperplasia patients with lower urinary tract symptoms: A randomized, open label, multicenter study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Urology	6. 最初と最後の頁 522 ~ 523
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/iju.13908	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koie Takuya, Ohyama Chikara, Makiyama Kazuhide, Shimazui Toru, Miyagawa Tomoaki, Mizutani Kosuke, Tsuchiya Tomohiro, Kato Taku, Nakane Keita	4. 巻 26
2. 論文標題 Utility of robot-assisted radical cystectomy with intracorporeal urinary diversion for muscle-invasive bladder cancer	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Urology	6. 最初と最後の頁 334 ~ 340
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/iju.13900	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hamano Itsuto, Hatakeyama Shingo, Narita Shintaro, Takahashi Masahiro, Sakurai Toshihiko, Kawamura Sadafumi, Hoshi Senji, Ishida Masanori, Kawaguchi Toshiaki, Ishidoya Shigeto, Shimoda Jiro, Sato Hiromi, Mitsuzuka Koji, Tochigi Tatsuo, Tsuchiya Norihiko, Arai Yoichi, Habuchi Tomonori, Ohyama Chikara	4. 巻 37
2. 論文標題 Impact of nadir PSA level and time to nadir during initial androgen deprivation therapy on prognosis in patients with metastatic castration-resistant prostate cancer	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 World Journal of Urology	6. 最初と最後の頁 2365-2373
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00345-019-02664-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okita Kazutaka, Hatakeyama Shingo, Tanaka Toshiaki, Ikehata Yoshinori, Tanaka Toshikazu, Fujita Naoki, Ishibashi Yusuke, Yamamoto Hayato, Yoneyama Takahiro, Hashimoto Yasuhiro, Yoshikawa Kazuaki, Kawaguchi Toshiaki, Masumori Naoya, Kitamura Hiroshi, Ohyama Chikara	4. 巻 17
2. 論文標題 Impact of Disagreement Between Two Risk Group Models on Prognosis in Patients With Metastatic Renal-Cell Carcinoma	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Clinical Genitourinary Cancer	6. 最初と最後の頁 e440-e446
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.clgc.2019.01.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hamano Itsuto, Hatakeyama Shingo, Yamamoto Hayato, Fujita Takeshi, Murakami Reiichi, Shimada Michiko, Imai Atsushi, Yoneyama Tooru, Yoneyama Takahiro, Hashimoto Yasuhiro, Koie Takuya, Narumi Shunji, Saitoh Hisao, Suzuki Tadashi, Tomita Hirofumi, Ohyama Chikara	4. 巻 23
2. 論文標題 Impact of distance between donor and recipient hospitals on cadaveric kidney transplantation outcomes	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Clinical and Experimental Nephrology	6. 最初と最後の頁 807-813
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10157-019-01710-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kim Myong, Kim Jong Keun, Lee Jaehoon, Kim Young Seok, Lee Jae Lyun, Kwak Cheol, Jeong Chang Wook, Byun Seok-Soo, Lee Sang Cheol, Ohyama Chikara, Arai Youichi, Ahn Hanjong	4. 巻 104
2. 論文標題 Adjuvant Treatments for Advanced Stage, Non-metastatic Upper Tract Urothelial Carcinoma: A Multicenter Study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Radiation Oncology*Biology*Physics	6. 最初と最後の頁 819-827
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijrobp.2019.03.027	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Noro D, Yoneyama T, Hatakeyama S, Tobisawa Y, Mori K, Hashimoto Y, Koie T, Tanaka M, Nishimura SI, Sasaki H, Saito M, Harada H, Chikaraishi T, Ishida H, Tanabe K, Satoh S, Ohyama C	4. 巻 18
2. 論文標題 Serum Aberrant N-Glycan Profile as a Marker Associated with Early Antibody-Mediated Rejection in Patients Receiving a Living Donor Kidney Transplant.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Int J Mol Sci.	6. 最初と最後の頁 1731
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijms18081731.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujita Naoki, Koie Takuya, Ohyama Chikara, Tanaka Yoshimi, Soma Osamu, Matsumoto Teppei, Yamamoto Hayato, Imai Atsushi, Tobisawa Yuki, Yoneyama Tohru, Hatakeyama Shingo, Hashimoto Yasuhiro	4. 巻 22
2. 論文標題 Overall survival of high-risk prostate cancer patients who received neoadjuvant chemohormonal therapy followed by radical prostatectomy at a single institution	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Int J Clin Oncol.	6. 最初と最後の頁 1087 ~ 1093
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10147-017-1160-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamamoto H, Tobisawa Y, Inubushi T, Irie F, Ohyama C, Yamaguchi Y	4. 巻 292
2. 論文標題 A mammalian homolog of the zebrafish transmembrane protein 2 (TMEM2) is the long-sought-after cell-surface hyaluronidase. J Biol Chem.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 J Biol Chem	6. 最初と最後の頁 7304-7313
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1074/jbc.M116.770149	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka T, Koie T, Ohyama C, Hashimoto Y, Imai A, Tobisawa Y, Hatakeyama S, Yamamoto H, Yoneyama T, Horiguchi H, Kodama H, Yoneyama T	4. 巻 18
2. 論文標題 Incidental prostate cancer in patients with muscle-invasive bladder cancer who underwent radical cystoprostatectomy.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Jpn J Clin Oncol.	6. 最初と最後の頁 1078-1082
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jjco/hyx119.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto T, Hatakeyama S, Ookubo T, Mitsuzuka K, Narita S, Inoue T, Yamashita S, Narita T, Koie T, Kawamura S, Tochigi T, Tsuchiya N, Habuchi T, Arai Y, Ohyama C	4. 巻 34
2. 論文標題 Cost-effectiveness comparison between neoadjuvant chemohormonal therapy and extended pelvic lymph node dissection in high-risk prostate cancer patients treated with radical prostatectomy: a multi-institutional analysis.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Med Oncol.	6. 最初と最後の頁 190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12032-017-1050-y.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Anan Go, Hatakeyama Shingo, Fujita Naoki, Iwamura Hiromichi, Tanaka Toshikazu, Yamamoto Hayato, Tobisawa Yuki, Yoneyama Tooru, Yoneyama Takahiro, Hashimoto Yasuhiro, Koie Takuya, Ito Hiroyuki, Yoshikawa Kazuaki, Kawaguchi Toshiaki, Sato Makoto, Ohyama Chikara	4. 巻 8
2. 論文標題 Trends in neoadjuvant chemotherapy use and oncological outcomes for muscle-invasive bladder cancer in Japan: a multicenter study	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Oncotarget.	6. 最初と最後の頁 86130-86142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18632/oncotarget.20991	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirose K, Aoki M, Sato M, Akimoto H, Hashimoto Y, Imai A, Kamimura N, Kawaguchi H, Hatayama Y, Fujioka I, Tanaka M, Ohyama C, Takai Y	4. 巻 12
2. 論文標題 Analysis of the relationship between prescribed dose and dosimetric advantage of real-time intraoperatively built custom-linked seeds in iodine-125 prostate brachytherapy.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Radiat Oncol.	6. 最初と最後の頁 192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13014-017-0932-7.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka T, Yoneyama T, Noro D, Imanishi K, Kojima Y, Hatakeyama S, Tobisawa Y, Mori K, Yamamoto H, Imai A, Yoneyama T, Hashimoto Y, Koie T, Tanaka M, Nishimura SI, Kurauchi S, Takahashi I, Ohyama C	4. 巻 18
2. 論文標題 Aberrant N-Glycosylation Profile of Serum Immunoglobulins is a Diagnostic Biomarker of Urothelial Carcinomas.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Int J Mol Sci.	6. 最初と最後の頁 E2632
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijms18122632.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishikawa T, Yoneyama T, Tobisawa Y, Hatakeyama S, Kurosawa T, Nakamura K, Narita S, Mitsuzuka K, Duivenvoorden W, Pinthus JH, Hashimoto Y, Koie T, Habuchi T, Arai Y, Ohyama C.	4. 巻 18
2. 論文標題 An Automated Micro-Total Immunoassay System for Measuring Cancer-Associated 2,3-linked Sialyl N-Glycan-Carrying Prostate-Specific Antigen May Improve the Accuracy of Prostate Cancer Diagnosis.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Int J Mol Sci.	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijms18020470	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yoneyama MS, Tobisawa Y, Hatakeyama S, Sato M, Tone K, Tatara Y, Kakizaki I, Funyu T, Fukuda M, Hoshi S, Ohyama C, Tsuboi S.	4. 巻 Epub ahead of print
2. 論文標題 A mechanism for evasion of CTL immunity by altered O-glycosylation of HLA class I.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 J Biochem.	6. 最初と最後の頁 e0138520
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jb/mvw096.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sato T, Hatakeyama S, Okamoto T, Yamamoto H, Hosogoe S, Tobisawa Y, Yoneyama T, Hashiba E, Yoneyama T, Hashimoto Y, Koie T, Hirota K, Ohyama C.	4. 巻 21
2. 論文標題 Slow Gait Speed and Rapid Renal Function Decline Are Risk Factors for Postoperative Delirium after Urological Surgery.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 PLoS One.	6. 最初と最後の頁 e0153961
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0153961. eCollection 2016.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoneyama T, Ohyama C.	4. 巻 74
2. 論文標題 Development of promising biomarkers for prostate cancer	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Nihon Rinsho	6. 最初と最後の頁 Suppl 3:191-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hagiwara K, Tobisawa Y, Kaya T, Kaneko T, Hatakeyama S, Mori K, Hashimoto Y, Koie T, Suda Y, Ohyama C, Yoneyama T	4. 巻 18
2. 論文標題 Wisteria floribunda Agglutinin and Its Reactive-Glycan-Carrying Prostate-Specific Antigen as a Novel Diagnostic and Prognostic Marker of Prostate Cancer.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Int J Mol Sci.	6. 最初と最後の頁 pii: E261
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.3390/ijms18020261.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mikami J, Tobisawa Y, Yoneyama T, Hatakeyama S, Mori K, Hashimoto Y, Koie T, Ohyama C, Fukuda M	4. 巻 107
2. 論文標題 I-branching N-acetylglucosaminyltransferase regulates prostate cancer invasiveness by enhancing $\alpha 5 \beta 1$ integrin signaling.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Cancer Sci.	6. 最初と最後の頁 359-368
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.12859.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kojima Y, Yoneyama T, Hatakeyama S, Mikami J, Sato T, Mori K, Hashimoto Y, Koie T, Ohyama C, Fukuda M, Tobisawa Y.	4. 巻 10
2. 論文標題 Detection of Core2 $\alpha 1,6$ -N-Acetylglucosaminyltransferase in Post-Digital Rectal Examination Urine Is a Reliable Indicator for Extracapsular Extension of Prostate Cancer.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Plos one	6. 最初と最後の頁 e0138520
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0138520	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Narita S, Mitsuzuka K, Tsuchiya N, Koie T, Kawamura S, Ohyama C, Tochigi T, Yamaguchi T, Arai Y, Habuchi T	4. 巻 22
2. 論文標題 Reassessment of the risk factors for biochemical recurrence in D'Amico intermediate-risk prostate cancer treated using radical prostatectomy.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Int J Urol.	6. 最初と最後の頁 1013 - 1020
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/iju.12898	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koie T, Ohyama C, Hatakeyama S, Imai A, Yoneyama T, Hashimoto Y, Yoneyama T, Tobisawa Y, Hosogoe S, Yamamoto H, Kitayama M, Hirota K.	4. 巻 21
2. 論文標題 Significance of preoperative butyrylcholinesterase as an independent predictor of biochemical recurrence-free survival in patients with prostate cancer treated with radical prostatectomy.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Int J Clin Oncol	6. 最初と最後の頁 379 - 383
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10147-015-0880-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mitsuzuka K, Koga H, Sugimoto M, Arai Y, Ohyama C, Kakehi Y, Naito S.	4. 巻 22
2. 論文標題 Current use of active surveillance for localized prostate cancer: A nationwide survey in Japan.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Int J Urol.	6. 最初と最後の頁 754-759
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/iju.12813.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koie T, Mitsuzuka K, Yoneyama T, Narita S, Kawamura S, Kaiho Y, Tsuchiya N, Tochigi T, Habuchi T, Arai Y, Ohyama C, Yoneyama T, Tobisawa Y.	4. 巻 20
2. 論文標題 Neoadjuvant luteinizing-hormone-releasing hormone agonist plus low-dose estramustine phosphate improves prostate-specific antigen-free survival in high-risk prostate cancer patients: a propensity score-matched analysis.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Int J Clin Oncol	6. 最初と最後の頁 1018-1025
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.1007/s10147-015-0802-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mitsuzuka K, Narita S, Koie T, Kaiho Y, Tsuchiya N, Yoneyama T, Kakoi N, Kawamura S, Tochigi T, Ohyama C, Habuchi T, Arai Y.	4. 巻 18
2. 論文標題 Lymphovascular invasion is significantly associated with biochemical relapse after radical prostatectomy even in patients with pT2N0 negative resection margin.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Prostate Cancer Prostatic Dis.	6. 最初と最後の頁 25 - 30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/iju.12630.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計89件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 59件)

1. 発表者名 Yamamoto H, Hatakeyama S, Imai A, Kodama H, Kusaka A, Tokui N, Yoneyama To, Yoneyama Ta, Hashimoto Y, Koie T, Nakaji S, Ohyama C
2. 発表標題 Patient selection for confirmatory tests of Primary Aldosteronism (PA) using the PA discrimination score.
3. 学会等名 AUA 2018 (米国泌尿器科会議) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Fujita N, Hatakeyama S, Tobisawa Y, Yoneyama T, Yamamoto H, Imai A, Yoneyama T, Hashimoto Y, Koie T, Ohyama C
2. 発表標題 The impact of acute kidney injury on prognosis in patients with Urological sepsis.
3. 学会等名 AUA 2018 (米国泌尿器科会議) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hosogoe S, Hatakeyama S, Kodama H, Kusaka A, Tokui N, Yamamoto H, Yoneyama T, Imai A, Yoneyama T, Hashimoto Y, Koie T, Ohyama C
2. 発表標題 Contrast media enhancement reduction predicts tumor response to presurgical Molecular-Targeting therapy in patients with advanced renal cell carcinoma
3. 学会等名 AUA 2018 (米国泌尿器科会議) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Soma O, Hatakeyama S, Matsumoto T, Kusaka A, Hosogoe S, Hamano I, Tobisawa Y, Yoneyama T, Yamamoto Y, Imai A, Yoneyama T, Hashimoto Y, Koie T, Ohyama C
2. 発表標題 Clinical implication of a simple quantitative frailty assessment tool for prognosis in patients with urological cancers.
3. 学会等名 AUA 2018 (米国泌尿器科会議) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hamano I, Hatakeyama S, Matsumoto T, Soma O, Kusaka A, Hosogoe S, Tobisawa Y, Yoneyama T, Yamamoto H, Imai A, Yoneyama T, Hashimoto Y, Koie T, Itoh H, Yoshikawa K, Kawaguchi T, Ohyama C
2. 発表標題 Preoperative chronic kidney disease predicts poor oncological outcomes after radical cystectomy in patients with muscle-invasive bladder cancer.
3. 学会等名 AUA 2018 (米国泌尿器科会議) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kusaka A, Hatakeyama S, Iwamura H, Yoneyama T, Hashimoto Y, Koie T, Itoh H, Yoshikawa K, Kawaguchi T, Ohyama C
2. 発表標題 Risk-stratified surveillance and cost effectiveness of follow-up after radical cystectomy in patients with muscle-invasive bladder cancer.
3. 学会等名 AUA 2018 (米国泌尿器科会議) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tanaka T, Yoneyama T, Noro D, Kojima Y, Imanishi K, Yamamoto H, Tobisawa Y, Mori K, Imai A, Hatakeyama S, Yoneyama T, Hashimoto Y, Koie T, Tanaka M, Nishimura S, Kurauchi S, Takahashi I, Ohyama C
2. 発表標題 Aberrant N-glycosylation profile of serum immunoglobulins is a urothelial carcinomas.
3. 学会等名 AUA 2018 (米国泌尿器科会議) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hatakeyama S, Yoneyama T, Kodama H, Kusaka A, Hosogoe S, Tokui N, Yamamoto H, Yoneyama T, Hashimoto Y, Koie T, Ohyama C
2. 発表標題 Clinical impact of glomerular basement membrane thickness on donor renal function after kidney donation.
3. 学会等名 AUA 2018 (米国泌尿器科会議) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Anan G, Hatakeyama S, Fujita N, Iwamura H, Tanaka T, Yamamoto H, Tobisawa Y, Yoneyama To, Yoneyama Ta, Hashimoto Y, Koie T, Ito H, Yoshikawa K, Kawaguchi T, Sato M, Ohyama C
2. 発表標題 Pathological downstaging at radical cystectomy for muscle-invasive bladder cancer , survival outcomes in the setting of neoadjuvant chemotherapy versus transurethral resection only.
3. 学会等名 AUA 2018 (米国泌尿器科会議) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hamano I, Hatakeyama S, Matsumoto T, Soma O, Kusaka A, Hosogoe S, Tobisawa Y, Yoneyama T, Hashimoto Y, koie T, Ohyama C
2. 発表標題 Potential predictors for the under-reporting between patient-outcomes in advanced urothelial carcinoma.
3. 学会等名 AUA 2018 (米国泌尿器科会議) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoneyama T, Ishikawa T, Tobisawa Y, Hatakeyama S, Date M, Nakamura K, Narita S, Mitsuzuka K, Wilhelmina Duivenvoorden, Jehonathan H. Pinthus, Hamilton, Hashimoto Y, Koie T, Habuchi T, Arai Y, Ohyama C
2. 発表標題 Comparison with diagnostic performance between aberrant glycosylated S2,3PSA test and conventional PSA tests.
3. 学会等名 AUA 2018 (米国泌尿器科会議) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1 . 発表者名 Hatakeyama S、Yoneyama T、Ohyama C
2 . 発表標題 Diagnostic potential of aberrant N-Glycosylation of serum immunoglobulins in patients with urothelial calcinoma
3 . 学会等名 URS 2018 IN KOREA 2018 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Ohyama C、Yoneyama T、Hatakeyama S
2 . 発表標題 Impact of PSA glycosylation isoform on diagnosis and risk stratification of prostate cancer .
3 . 学会等名 URS 2018 IN KOREA 2018 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Imai A、Yamamoto H、Hatakeyama S、Yoneyama T、Hashimoto Y、Ohyama C
2 . 発表標題 Comparison between robot-assisted radical prostatectomy and minimum incision endoscopic radical prostatectomy for high-risk prostate cancer following neoadjuvant therapy,A propensity score-matched analysis .
3 . 学会等名 ESMO ASIA (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Hashimoto Y、Imai A、Yamamoto H、Hatakeyama S、Yoneyama T、Ohyama C
2 . 発表標題 Aldo-keto-reductase 1C3 expression in prostate cancer .
3 . 学会等名 ESMO ASIA (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Hatakeyama S、Yamamoto H、Imai A、Yoneyama T、Hashimoto Y、Koie T、Ohyama C
2 . 発表標題 The relationship between preoperative stage 3B chronic kidney disease and post-surgical oncological outcomes in patients with urothelial carcinoma.
3 . 学会等名 ESMO ASIA (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Hatakeyama S、Kodama H、Konishi S、Okita K、Yamamoto H、Imai A、Yoneyama T、Hashimoto Y、 Koie T、Ohyama C
2 . 発表標題 Does neoadjuvant chemotherapy promote chemoresistance after recurrence in patients with muscle-invasive bladder cancer?
3 . 学会等名 ESMO ASIA (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Hatakeyama S、Konishi S、Okita K、Soma O、Matsumoto T、Yoneyama T、Hashimoto Y、Koie T、Ohyama C
2 . 発表標題 The gap of frailty value from a community-dwelling population predict oncological outcomes in patients with urological cancers .
3 . 学会等名 ESMO ASIA (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Hatakeyama S、Yamamoto H、Imai A、Yoneyama T、Hashimoto Y、Koie T、Ohyama C
2 . 発表標題 What is benefit of robot assisted radical cystectomy(RARC)? The comparison of open radical prostatectomy (ORC) with RARC?
3 . 学会等名 2nd ASIA Urological Oncology Forum (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Yoneyama T、Tobisawa Y、kaneko T、Kaya T、Ishikawa T、Date M、Hatekeyama S、Mitsuzuka K、Duivenvoorden W、Jehonathan H、Hashimoto Y、Ito A、Koie T、Robert A、Ohyama C
2 . 発表標題 PSA glycoisomer improves diabnosis and high-grade prostate cancer prediction.
3 . 学会等名 2nd ASIA Urological Oncology Forum (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Hatakeyama S、Konishi S、Tanaka T、Ikehata Y、Fujita N、Ishibashi Y、Masumori N、Kitamura H、Yamamoto H、Imai A、Yoneyama T、Hashimoto Y、Ohyama C
2 . 発表標題 Axitinib vs Sunitinib as first-line therapies for metastatic renal cell carcinoma , A multicenter retrospective analysis.
3 . 学会等名 ASCO-GU 2019 (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Hatakeyama S、Okita K、Tanaka T、Ikehata Y、Fujita N、Ishibashi Y、Masumori N、Kitamura H、Yamamoto H、Imai A、Yoneyama T、Hashimoto Y、Ohyama C
2 . 発表標題 Impact of disagreement between the IMDC and MSKCC risk groups on prognosis in patients with metastatic renal cell carcinoma.
3 . 学会等名 ASCO-GU 2019 (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Yoneyama T、Kodama H、Hosogoe S、Kusaka A、Tokui N、Yoneyama T、Mori K、Imai A、Hatakeyama S、Hashimoto Y、Koie T、Ohyama C
2 . 発表標題 Clinical impact of Bacillus Calmette-Guérin (BCG) therapy on prognosis in patients with carcinoma in situ (CIS) of the upper urinary tract , a retrospectivecomparison with nephroureterectomy.
3 . 学会等名 ASCO-GU 2019 (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 Hashimoto Y、Yamamoto H、Imai A、Hatakeyama S、Yoneyama T、Ohyama C
2. 発表標題 Programmed death-ligand 1 (PD-L1) expression in Pheochromocytoma.
3. 学会等名 ASCO-GU 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Okita K、Fujita N、Momota M、Tobisawa Y、Yoneyama T、Yamamoto H、Imai A、Hatakeyama S、Yoneyama T、Hashimoto Y、Yoshikawa K、Ohyama C
2. 発表標題 The impact of aortic calcification on severe erectile dysfunction in patients with end stage renal disease.
3. 学会等名 EAU 2019 (第34回欧州泌尿器学会議) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hashimoto Y、Kubota Y、Yamamoto H、Yoneyama T、Hatakeyama S、Yoneyama T、Ohyama C
2. 発表標題 MECA79 positive high endothelial venule (HEV) density correlates with clinical outcomes in Upper Tract Urothelial Carcinoma patients treated with Radical Nephroureterectomy.
3. 学会等名 EAU 2019 (第34回欧州泌尿器学会議) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamamoto H、Hatakeyama S、Okita K、Konishi S、Matsumoto T、Fujita N、Suzuki Y、Yoneyama T、Imai A、Yoneyama T、Hashimoto Y、Takayasu S、Nakaji S、Ohyama C
2. 発表標題 Validation of primary aldosteronism (PA) discrimination score for confirmatory tests of PA.
3. 学会等名 EAU 2019 (第34回欧州泌尿器学会議) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kodama H, Hatakeyama S, Yamamoto H, Imai A, Yoneyama T, Hashimoto Y, Ito H, Yoshikawa K, Sasaki A, Takahashi S, Ohyama C
2. 発表標題 Clinical usefulness of diagnostic tool to distinguish testicular torsion from torsion of the appendix testis.
3. 学会等名 EAU 2019 (第34回欧州泌尿器学会議) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kodama H, Hatakeyama S, Takahashi M, Narita S, Sakurai T, Kawamura S, Hoshi S, Ishida M, Kawaguchi T, Ishidoya S, Shimoda J, Sato H, Mitsuzuka K, Tochigi T, Tsuchiya N, Arai Y, Habuchi T, Ohyama C
2. 発表標題 External validation of the CHARTED and LATITUDE criteria in patients with hormone-naive metastatic prostate cancer, A multi-institutional study in Japan.
3. 学会等名 EAU 2019 (第34回欧州泌尿器学会議) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Soma O, Hatakeyama S, Yamamoto H, Imai A, Yoneyama T, Hashimoto Y, Koie T, Ohyama C
2. 発表標題 The impact of frailty gap on prognosis in patients with urological cancers, a comparison of community-dwelling population.
3. 学会等名 EAU 2019 (第34回欧州泌尿器学会議) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Soma O, Hatakeyama S, Yoneyama T, Noro D, Tobisawa Y, Hashimoto Y, Koie T, Sasaki H, Saito M, Harada H, Chikaraishi T, Ishida H, Tanabe K, Satoh S, Ohyama C
2. 発表標題 Longitudinal serum N-glycan profiling predict biopsy-proven graft rejection after a living donor kidney transplantation.
3. 学会等名 EAU 2019 (第34回欧州泌尿器学会議) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Yoneyama T、Tobisawa Y、Kaneko T、Kaya T、Hatakeyama S、Mitsuzuka K、Duivenvoorden W、Jehonathan H、Hashimoto Y、Ito A、Koie T、Suda Y、Robert A、Ohyama C
2 . 発表標題 Clinically Significant Prostate Cancer Diagnostic Performance of LaccINAc-Prostate-Specific Antigen Glycoisomer Assay at Initial Prostate Biopsy , Retrospective Multi-Institutional Study .
3 . 学会等名 EAU 2019 (第34回欧州泌尿器学会議) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Fujita N、Momota M、Tobisawa Y、Yoneyama T、Yamamoto H、Imai A、Hatakeyama S、Ito H、Yoneyama T、Hashimoto Y、Yoshikawa K、Ohyama C
2 . 発表標題 Aortic calcification is the risk factor of severe acute kidney injury development in patients with urological sepsis .
3 . 学会等名 EAU 2019 (第34回欧州泌尿器学会議) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Fujita N、Momota M、Tobisawa Y、Yoneyama T、Yamamoto H、Imai A、Hatakeyama S、Ito H、Yoneyama T、Hashimoto Y、Yoshikawa K、Ohyama C
2 . 発表標題 Risk-stratified surveillance and cost effectiveness of follow-up after trans-urethral resection of bladder tumor in patients with primary non-muscle-invasive bladder cancer .
3 . 学会等名 EAU 2019 (第34回欧州泌尿器学会議) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Fujita N、Momota M、Tobisawa Y、Yoneyama T、Yamamoto H、Imai A、Hatakeyama S、Ito H、Yoneyama T、Hashimoto Y、Yoshikawa K、Ohyama C
2 . 発表標題 The efficacy and feasibility of radiation therapy to the primary tumor in patients with metastatic castration-resistant prostate cancer .
3 . 学会等名 EAU 2019 (第34回欧州泌尿器学会議) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Hatakeyama S、Soma O、Yamamoto H、Imai A、Yoneyama T、Hashimoto Y、Ohyama C
2 . 発表標題 Impact of frailty on treatment modality selection in patients with muscle-invasive bladder cancer , Radical cystectomy vs bladder preservation therapy .
3 . 学会等名 EAU 2019 (第34回欧州泌尿器学会議) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Hatakeyama S、Imai A、Hamano I、Tanaka T、Yoneyama T、Yamamoto H、Yoneyama T、Hashimoto Y、Nakaji S、Ohyama C
2 . 発表標題 Development and validation of the prediction nomogram for a stone episode .
3 . 学会等名 EAU 2019 (第34回欧州泌尿器学会議) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Momota M、Fujita N、Tobisawa Y、Yoneyama T、Yamamoto H、Imai A、Hatakeyama S、Ito H、Yoneyama T、Hashimoto Y、Yoshikawa K、OhyamaC
2 . 発表標題 The impact of acute kidney injury on renal impairment and cardiovascular disease in patients with muscle invasive bladder cancer treated with radical cystectomy .
3 . 学会等名 EAU 2019 (第34回欧州泌尿器学会議) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Suzuki Y、Hatakeyama S、Yamamoto H、Imai A、Yoneyama T、Hasimoto Y、Koie T、Ohyama C
2 . 発表標題 The impact of initial PSA <100 ng/mL on prognosis in patients with metastatic hormone naïve prostate cancer (mHNPC) .
3 . 学会等名 EAU 2019 (第34回欧州泌尿器学会議) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Hatakeyama S、Konishi S、Yamamoto H、Imai A、Yoneyama T1 Hashimoto Y、Nakaji S、Ohyama C
2 . 発表標題 The impact of fall on nocturia and frailty in community-dwelling individuals .
3 . 学会等名 EAU 2019 (第34回欧州泌尿器学会議) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Narita T、Hatakeyama S、Yoneyama T、Narita S、Yamashita S、Mitsuzuka K、Sakurai T、Kawamura S、Tochigi T、Takahashi I、Nakaji S、Tobisawa Y、Yamamoto H、Koie T、Tsuchiya N、Habuchi T、Arai Y、Ohyama C
2 . 発表標題 Clinical implications of serum N-glycanprofiling as a diagnostic and prognostic biomarker in germ-cell tumors
3 . 学会等名 112回米国泌尿器科学会議(AUA 2017) (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Yoneyama T、Tobisawa Y、Hatakeyama S、Mori K、Hashimoto Y、Koie T、Ohyama C
2 . 発表標題 Serum N-glycomics predicts in patients who developed castration resistant prostate cancer .
3 . 学会等名 第112回米国泌尿器科学会議(AUA 2017) (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Oikawa M、Hatakeyama S、Yoneyama T、Tobisawa Y、Narita T、Yamamoto H、Hashimoto Y、Koie T、Narita S、Tsuchiya N、Habuchi T、Takahashi I、Nakaji S、Ohyama C
2 . 発表標題 Significance of serum N-glycan profiling as a diagnostic biomarker in urothelial carcinoma .
3 . 学会等名 第112回米国泌尿器科学会議(AUA 2017) (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1. 発表者名	Noro D, Yoneyama T, Hatakeyama S, Tobisawa Y, Mori K, Hashimoto Y, Koie T, Tanaka M, Nishimura S, Sasaki H, Saito M, Harada H, Chikaraishi T, Ishida H, Tanabe K, Satoh S, Ohyama C
2. 発表標題	Serum sialyl hybrid typed N-glycan levels predicts early ABMR in living donor kidney transplant patients.
3. 学会等名	第112回米国泌尿器科学会議(AUA 2017) (国際学会)
4. 発表年	2017年

1. 発表者名	Tanaka T, Tobisawa Y, Hatakeyama S, Mori K, Hashimoto Y, Koie T, Ohyama C, Yoneyama T
2. 発表標題	Serum core fucosylated N-glycan carrying immunoglobulin is a diagnostic and pre-operative prognostic marker of upper tract urothelial carcinoma (UTUC)
3. 学会等名	第112回米国泌尿器科学会議(AUA 2017) (国際学会)
4. 発表年	2017年

1. 発表者名	Hagiwara K, Koie T, Tobisawa Y, Yoneyama T, Yamamoto H, Imai A, Hatakeyama S, Yoneyama T, Hashimoto Y, Ohyama C
2. 発表標題	Efficacy of a neoadjuvant luteinizing hormone-releasing hormone antagonist plus low-dose estramustine phosphate in high-risk prostate cancer.
3. 学会等名	第112回米国泌尿器科学会議(AUA 2017) (国際学会)
4. 発表年	2017年

1. 発表者名	日下 歩、畠山真吾、濱野逸人、細越正吾、今井 篤、米山高弘、橋本安弘、古家琢也、大山 力
2. 発表標題	術前ホルモン療法後の前立腺組織内アンドロゲン濃度の検討：Estramustine は前立腺癌組織内DHEA を低下させる。
3. 学会等名	第105回日本泌尿器科学会総会
4. 発表年	2017年

1. 発表者名 石川友一、米山 徹、飛澤悠葵、畠山真吾、黒澤竜雄、橋本安弘、古家琢也、中村賢治、大山 力
2. 発表標題 マイクロキャピラリー電気泳動免疫蛍光検出装置を用いた新規の前立腺癌関連糖鎖変異マーカーS2,3PSA 測定に基づく診断手法 .
3. 学会等名 第105回日本泌尿器科学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 成田拓磨、畠山真吾、米山 徹、成田伸太郎、山下慎一、櫻井俊彦、飛澤悠葵、古家琢也、土谷順彦、羽瀨友則、荒井陽一、大山 力
2. 発表標題 血清N-結合型糖鎖の網羅的質量解析による精巣腫瘍の診断・予後マーカーの検索 .
3. 学会等名 第105回日本泌尿器科学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 萩原和久、畠山真吾、米山 徹、盛 和行、今井 篤、米山高弘、橋本安弘、古家琢也、羽瀨友則、荒井陽一、土谷順彦、大山 力
2. 発表標題 高リスク前立腺癌に対する術前化学ホルモン療法の費用対効果の検討 .
3. 学会等名 第105回日本泌尿器科学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 及川真亮、畠山真吾、成田拓磨、今井 篤、米山高弘、米山 徹、橋本安弘、古家琢也、大山 力
2. 発表標題 尿路上皮癌症例における新規バイオマーカーとしての血清N-glycan の網羅的質量解析 .
3. 学会等名 第105回日本泌尿器科学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 今井 篤、畠山真吾、米山高弘、橋本安弘、古家琢也、大山 力
2. 発表標題 前立腺癌に対するRARP およびLDR-BT のQOL 経時変化についての検討 .
3. 学会等名 骨盤外科機能温存研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米山 徹
2. 発表標題 血清N-グライコミクスによるCRPCの予測 .
3. 学会等名 第8回Urological Expert Forum
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 畠山真吾、米山 徹、野呂大輔、佐藤 滋、力石辰也、石田英樹、田邊一成、原田 浩、大山 力
2. 発表標題 腎移植患者における血清N型糖鎖の変化についての検討 .
3. 学会等名 第53回日本移植学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米山 徹、野呂大輔、佐々木秀郎、齋藤 満、原田 浩、力石辰也、石田英樹、田邊一成、佐藤 滋、大山 力
2. 発表標題 血清N結合型糖鎖プロファイルによる抗体関連性拒絶の予測 .
3. 学会等名 第53回日本移植学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 日下 歩、畠山真吾、濱野逸人、細越正吾、今井 篤、米山高弘、橋本安弘、古家琢也、大山 力
2. 発表標題 術前ホルモン療法後の前立腺組織内アンドロゲン濃度の検討：Estramustineは前立腺癌組織内DHEAを低下させる。
3. 学会等名 第82回日本泌尿器科学会東部総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米山 徹、飛澤悠葵、金子智典、仮谷高敏、畠山真吾、今井 篤、米山高弘、橋本安弘、古家琢也、須田美彦、大山 力
2. 発表標題 癌性糖鎖変異PSA-Giと既存PSA検査による前立腺癌の診断能の比較。
3. 学会等名 第82回日本泌尿器科学会東部総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 古家琢也、藤田尚紀、堀口裕貴、小玉寛健、野呂大輔、成田拓磨、萩原和久、及川真亮、今西賢悟、米山 徹、今井 篤、橋本安弘、大山 力
2. 発表標題 高リスク前立腺癌に対する術前内分泌化学療法。
3. 学会等名 第82回日本泌尿器科学会東部総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 成田伸太郎、奈良健平、鶴田 大、沼倉一幸、神田壮平、齋藤 満、井上高光、南條 博、三塚 浩二、古家琢也、川村貞文、大山 力、荒井陽一、栃木達夫、羽瀨友則
2. 発表標題 ハイリスク前立腺癌に対する術前化学内分泌療法併用前立腺全摘の治療成績。
3. 学会等名 第82回日本泌尿器科学会東部総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米山 徹, 飛澤悠葵, 金子智典, 彼谷高敏, 畠山真吾, 今井 篤, 米山高弘, 橋本安弘, 古家琢也, 須田美彦, 大山 力
2. 発表標題 癌性糖鎖変異PSAと既存PSA検査による前立腺癌の診断精度の比較.
3. 学会等名 東北糖鎖研究会・東京糖鎖研究会合同シンポジウム(第11回東北糖鎖研究会・Glyco TOKYO 2017)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米山美穂子, 飛澤悠葵, 畠山真吾, 佐藤美紗季, 刀禰亀代志, 多田羅洋太, 柿崎育子, 舟生富寿, 福田 穰, 星 宣次, 大山 力, 坪井 滋
2. 発表標題 O-グリカン修飾変化を利用した新規CTL腫瘍免疫逃避機構.
3. 学会等名 東北糖鎖研究会・東京糖鎖研究会合同シンポジウム(第11回東北糖鎖研究会・Glyco TOKYO 2017)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本勇人, 飛澤悠葵, 犬伏俊博, 入江史俊, 畠山真吾, 米山 徹, 米山高弘, 橋本安弘, 古家琢也, 大山 力, 山口 祐
2. 発表標題 Transmembrane protein 2 (TMEM2) は細胞表面においてヒアルロン酸を分解する.
3. 学会等名 東北糖鎖研究会・東京糖鎖研究会合同シンポジウム(第11回東北糖鎖研究会・Glyco TOKYO 2017)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米山 徹, 飛澤悠葵, 金子智典, 彼谷高敏, 畠山真吾, 今井 篤, 米山高弘, 橋本安弘, 古家琢也, 須田美彦, 大山 力
2. 発表標題 PSA glycoisoform (PSA-Gi) と既存PSA検査による前立腺癌の診断能の比較.
3. 学会等名 第33回前立腺シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 畠山真吾, 米山 徹, 齋藤 満, 佐藤 滋, 原田 浩, 石田英樹, 田邊一成, 佐々木秀郎, 力石辰也, 大山 力
2. 発表標題 網羅的血清糖鎖分析による生体腎移植後拒絶反応予測マーカーの開発.
3. 学会等名 第27回泌尿器科分子・細胞研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米山 徹, 石川友一, 飛澤悠葵, 畠山真吾, 成田伸太郎, 三塚浩二, 羽瀧友則, 荒井陽一, 伊達睦廣, 大山 力
2. 発表標題 癌性糖鎖変異S2, 3PSA検査の測定安定性と既存PSA検査の前立腺癌診断.
3. 学会等名 第27回泌尿器科分子・細胞研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米山 徹, 飛澤悠葵, 金子智典, 彼谷高敏, 畠山真吾, 三塚浩二, 橋本安弘, 荒井陽一, 須田美彦, 大山 力
2. 発表標題 PSA糖鎖修飾異性体 (PSA-Gi) 検査と既存PSA検査との前立腺癌診断能比較.
3. 学会等名 第27回泌尿器科分子・細胞研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 成田拓磨, 古家琢也, 山本勇人, 今井 篤, 畠山真吾, 米山高弘, 橋本安弘, 大山 力
2. 発表標題 ハイリスク前立腺癌に対する術前内分泌化学療法 + ロボット支援前立腺全摘除術の有用性.
3. 学会等名 第10回日本ロボット外科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川口俊明, 相馬文彦, 高橋伸也, 齋藤久夫, 古家琢也, 大山 力
2. 発表標題 青森県総合検診センターにおける前立腺がん健診 - 平成28年度の検診結果および14年間の成績 - .
3. 学会等名 第22回青森前立腺癌研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米山高弘, 小玉寛健, 細越正吾, 日下 歩, 得居範子, 山本勇人, 今井 篤, 畠山真吾, 橋本安弘, 古家琢也, 大山 力
2. 発表標題 mHSPCに対する早期ドセタキセル療法の初期成績 .
3. 学会等名 第22回青森前立腺癌研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ohyama C
2. 発表標題 Development of novel biomarkersfor prostate cancer using glycobiology techniques.
3. 学会等名 The 12th AUA/JUA International Affiliate Society Meeting 2017 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ohyama C
2. 発表標題 Measurement of prostate cancer-associated aberrant glycosylation of PSA by an automated micro-total immunoassay system for improved accuracy of prostate cancer diagnosis.
3. 学会等名 Urological Reseach Society Annual Meeting (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米山 徹
2. 発表標題 糖鎖マーカーを利用した前立腺癌診断と術後の予後予測.
3. 学会等名 第105回日本泌尿器科学会総会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大山 力
2. 発表標題 手術支援ロボットを利用した泌尿器外科手術の進歩.
3. 学会等名 第27回日本臨床工学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 古家琢也
2. 発表標題 CRPC治療の最前線-実臨床におけるドセタキセルの実際.
3. 学会等名 第82回日本泌尿器科学会東部総会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本勇人
2. 発表標題 新規ヒアルロン酸分解酵素 transmembrane protein 2 (TMEM2) の発見.
3. 学会等名 東北糖鎖研究会・東京糖鎖研究会合同シンポジウム (第11回東北糖鎖研究会・Glyco TOKYO 2017) (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大山 力
2. 発表標題 ー泌尿器科医の糖鎖生物学的アプローチ.
3. 学会等名 東北糖鎖研究会・東京糖鎖研究会合同シンポジウム(第11回東北糖鎖研究会・Glyco TOKYO 2017)(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米山 徹
2. 発表標題 PSA糖鎖修飾異性体による前立腺癌診断、悪性度評価と糖鎖抗原を利用したLiquid biopsyの可能性.
3. 学会等名 第2回Liquid Biopsy研究会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoneyama MS, Hatakeyama S, Habuchi T, Inoue T, Nakamura T, Funyu T, Wiche G, Tsuboi S, Ohyama C
2. 発表標題 Stabilization of invadopodia by plectin-mediated conjunction to vimentin intermediate filament is a critical molecular step of invasion and extravasation for metastasis in bladder cancer.
3. 学会等名 第110回米国泌尿器科学会議(AUA2016)(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hashimoto Y, Iwamura H, Imai A, Hatakeyama S, Yoneyama T, Tkoie T, Ohyama C
2. 発表標題 Aldo-keto-reductase 1C3 expression as an independent risk factor for occurrence of castration resistant prostate cancer in high risk prostate cancer treated with neoadjuvant therapy and prostatectomy
3. 学会等名 第110回米国泌尿器科学会議(AUA2016)(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tobisawa Y, Yoneyama T, Hatakeyama S, Yoneyama T, Hashimoto Y, Koie T, Ohyama C
2. 発表標題 Serum LacdiNac-PSA determined by Surface Plasmon Field-enhanced Fluorescence Spectroscopy (SPFS)-based assay system has improved diagnostic accuracy than PSA.
3. 学会等名 第110回米国泌尿器科学会議(AUA2016) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ishikawa T, Yoneyama T, Tobisawa Y, Hatakeyama S, Kurosawa T, Nakamura K, Ohyama C
2. 発表標題 Prostate Cancer-Associated Aberrant Glycosylated S2,3PSA test utilizing microcapillary electrophoresis-based immunoassay enabled clinical application for early diagnosis of prostate cancer.
3. 学会等名 第110回米国泌尿器科学会議(AUA2016) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Koie T, Ohyama C, Imai A, Hatakeyama S, Yoneyama T, Hashimoto Y, Yoneyama T, Tobisawa Y
2. 発表標題 Significance of preoperative butyrylcholinesterase as an independent predictor of biochemical recurrence-free survival in patients with prostate cancer treated with radical prostatectomy.
3. 学会等名 第110回米国泌尿器科学会議(AUA2016) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Narita S, Mitsuoka K, Tsuchiya N, Koie T, Kawamura S, Ohyama C, Tochigi T, Yamaguchi T, Arai Y, Habuchi T
2. 発表標題 Reassessment of risk factors for biochemical recurrence in D'Amico intermediate-risk prostate cancer treated by radical prostatectomy.
3. 学会等名 第110回米国泌尿器科学会(AUA 2016) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yoneyama T, Oikawa M, Imai A, Hatakeyama S, Hashimoto Y, Koie T, Ohyama C
2. 発表標題 The Therapeutic Outcome of Robot-assisted Radical Prostatectomy (RARP) Following Neoadjuvant Chemohormonal Therapy for High-risk Prostate Cancer .
3. 学会等名 34th World Congress of Endourology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hagiwara K, Imai A, Htakeyama S, Yoneyama T, Hashimoto Y, Koie T, Ohyama C, Tanaka N, Fujimoto K
2. 発表標題 Comparison of post-treatment change in lower urinary tract symptoms and health-related quality of life between low-doses rate brachytherapy and robotic-assisted laparoscopic radical prostatectomy : a longitudinal study.
3. 学会等名 34th World Congress of Endourology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hashimoto Y, Imai A, Hatakeyama S, Yoneyama T, Koie T, Ohyama C
2. 発表標題 PD-L1 over expression may predict disease aggressiveness in prostate cancer .
3. 学会等名 ESMO ASIA 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Oikawa M, Hatakeyama S, Yoneyma T, Tobisawa Y, Narita T, Yamamoto H, Hashimoto Y, Koie T, Narita S, Tsuchiya N, Habuchi T, Takahashi I, Nakaji S, Ohyama C
2. 発表標題 Significance of serum N-glycan profiling as a diagnostic biomarker in urothelial carcinoma.
3. 学会等名 第32回欧州泌尿器科学会 (EAU) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoneyama MS, Hatakeyama S, Funyu T, Tsuboi S, Ohyama C
2. 発表標題 Bladder cancer-secreted extracellular vesicles destroy vascular endothelial barriers.
3. 学会等名 第32回欧州泌尿器科学会 (EAU)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Jotaro Mikami, Yuki Tobisawa, Tohru Yoneyama, Shingo Hatakeyama, Kazuyuki Mori, Yasuhiro Hashimoto, Takuya Koie, Chikara Ohyama and Minoru Fukuda
2. 発表標題 l-branching glycan regulates prostate cancer invasiveness by enhancing $\alpha 5 \beta 1$ integrin signaling
3. 学会等名 欧州泌尿器科会議 (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔出願〕 計8件

産業財産権の名称 前立腺癌と前立腺肥大症を鑑別するための方法及びキット	発明者 大山 力 他	権利者 同左
産業財産権の種類、番号 特許、14/432,902号	出願年 2017年	国内・外国の別 外国

産業財産権の名称 検体中の特定のPSAの含有量に基づく、前立腺癌のグリソンスコアの推定方法、病理病期分類の推定方法、および補助情報の取得方法	発明者 大山 力 他	権利者 同左
産業財産権の種類、番号 特許、特願2016-231322号	出願年 2016年	国内・外国の別 国内

産業財産権の名称 レクチン組織化学染色に基づく前立腺癌の再発リスクの推定方法	発明者 大山 力 他	権利者 同左
産業財産権の種類、番号 特許、特願2016-231323号	出願年 2016年	国内・外国の別 国内

産業財産権の名称 前立腺癌と前立腺肥大症を鑑別するための方法	発明者 大山 力 他	権利者 弘前大学
産業財産権の種類、番号 特許、14/432,902号	出願年 2015年	国内・外国の別 外国

産業財産権の名称 前立腺癌の判定法	発明者 大山 力 石川友一 他	権利者 弘前大学
産業財産権の種類、番号 特許、特願2016-13034号	出願年 2016年	国内・外国の別 国内

産業財産権の名称 前立腺癌を判定する方法	発明者 大山 力 他	権利者 弘前大学
産業財産権の種類、番号 特許、PCT/JP2019/19707	出願年 2019年	国内・外国の別 外国

産業財産権の名称 検体中の特定のPSAの含有量に基づく、前立腺癌のグリーンソンスコアの推定方法、病理病期分類の推定方法、および補助情報の取得方法	発明者 大山 力 他	権利者 弘前大学
産業財産権の種類、番号 特許、PCT/JP2017/4280P2	出願年 2019年	国内・外国の別 外国

産業財産権の名称 診療補助情報の取得方法	発明者 大山 力 他	権利者 弘前大学
産業財産権の種類、番号 特許、PCT/JP2017/42803	出願年 2019年	国内・外国の別 外国

〔取得〕 計1件

産業財産権の名称 前立腺癌の判定法	発明者 大山 力 他	権利者 同左
産業財産権の種類、番号 特許、特願2017-562101	取得年 2018年	国内・外国の別 国内

〔その他〕

<p>研究業績 www.med.hirosaki-u.ac.jp/~uro</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	羽瀨 友則 (Habuchi Tomonori) (00293861)	秋田大学・医学系研究科・教授 (11401)	
研究分担者	畠山 真吾 (Hatakeyama Shingo) (10400136)	弘前大学・医学部附属病院・講師 (11101)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	坪井 滋 (Tsuboi Shigeru) (20526727)	弘前大学・医学研究科・研究員 (11101)	
研究分担者	盛 和行 (Mori Kazuyuki) (40266903)	弘前大学・医学研究科・助教 (11101)	
研究分担者	米山 徹 (Yoneyama Tohru) (50587649)	弘前大学・医学研究科・助教 (11101)	
研究分担者	橋本 安弘 (Hashimoto Yasuhiro) (60322939)	弘前大学・医学研究科・准教授 (11101)	
研究分担者	米山 高弘 (Yoneyama Takahiro) (90374834)	弘前大学・医学研究科・准教授 (11101)	
研究分担者	古家 琢也 (Koie Takuya) (60321965)	弘前大学・医学研究科・准教授 (11101)	
研究分担者	飛澤 悠葵 (Tobisawa Yuki) (70623768)	弘前大学・医学研究科・助教 (11101)	削除：平成30年4月19日